

effect on phasic pain in wild-type and mutant mice. In tonic pain tests, mutant mice demonstrated nociceptive behavior similar to wild-type animals. Ketamine weakly but significantly reduced phase 2 behavior in the formalin test in wild-type mice. Its effect on acetic acid-induced abdominal constrictions was more pronounced. The analgesic responses to ketamine in tonic pain tests were not altered in mutant mice. These data indicate that ketamine has no effect on acute nociceptive thresholds in somatic tissues in normal mice. After peripheral inflammation ketamine more potently alleviates pain of visceral rather than of somatic origin. The results in mutant mice suggest that the NMDA receptor $\epsilon 1$ subunit is probably not important in pain mechanisms and does not mediate analgesic effect of ketamine.

10 当院におけるオピオイド鎮痛薬の使用状況

北原 紀子・高田 俊和・丸山 洋一
県立がんセンター新潟病院麻酔科

近年、オキシコドン、フェンタニルパッチ、塩酸モルヒネ分放液が発売され、がん性疼痛の使用薬剤の幅が広がった。私たちは全国がん(成人病)センター協議会の施設を対象にオピオイド使用量とその使用に関する意識調査を行ったので、当院の結果と比較した。他施設と比較すると、当院ではフェンタニルパッチと塩酸モルヒネ注射剤の使用比率およびその評価が高かった。また、オキシコドン徐放剤と塩酸モルヒネ分包液の量が増加しつつある。その反面、硫酸モルヒネの使用量は減少している。

11 帯状疱疹後神経痛患者に対するマグネシウム点滴療法の試み

佐藤 剛・岡本 学・富田美佐緒
馬場 洋
新潟大学医歯学総合病院麻酔科

今回我々は、帯状疱疹が原因による疼痛にて当

科に外来通院している患者21名に対し、マグネシウム点滴による疼痛緩和効果の程度と持続時間を調査した。その結果、帯状疱疹痛より帯状疱疹後神経痛の方がより緩和効果を示す割合が高く、持続時間は数時間と数十時間のグループに大別される傾向があった。今回の試みだけでは罹患期間の長さとの相関ははっきりしなかったが、今後症例を重ねていくことで検討していく価値はあると思われる。マグネシウム点滴療法による疼痛緩和の機序はまだ完全に解明されていない点が多いものの、帯状疱疹後神経痛の治療法としてマグネシウム点滴療法は大きな副作用もなく簡便であることからこれからの治療法のひとつとして試みる価値はあると思われた。

12 遺伝性血管神経性浮腫症の患者の麻酔経験

中安 浩介・堂前圭太郎・持田 崇
種岡 美紀・今井 英一・北原 泰
傳田 定平・野本 優二*

新潟市民病院麻酔科
同 救急救命センター*

遺伝性血管神経浮腫症(以下:HANE)の患者の腹腔鏡下胆嚢摘出術における麻酔を経験した。

患者は73歳女性。兄弟、子供、孫にHANEあり。66歳時、HANEと診断された。70歳時より当院内科にてダナゾール内服にて加療を続けていた。平成17年3月16日、急性胆嚢炎にて入院。症状改善後手術予定となり、5月9日に手術を行った。予防的に手術前よりダナゾールの増量を行い、術直前にC1-Inh製剤の投与を行った。麻酔時には硬膜外穿刺は行わず、ラリングアルマスクを使用するなど身体、気道への刺激を抑えた。術後に特に症状の出現はなく、適切な予防と麻酔時の侵襲を抑える事で、HANEの患者でも通常の手術が可能であった。